

令和2年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る事後評価結果

領域番号	1701	領域略称名	総合稲作文明学
研究領域名	稲作と中国文明－総合稲作文明学の構築－		
領域代表者名 (所属等)	中村 慎一 (金沢大学・歴史言語文化学系・教授)		

(評価結果)

A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があった)

(評価結果の所見)

本研究領域が掲げた、文系・理系の枠を超えた学際的アプローチによってイネ栽培化プロセスを復元し、これを長江流域の文明の興亡史と関連づけながら中国文明の特質やレジリアンスの源泉を解明するという当初の目的は、期待通り達成されたと評価できる。領域代表者のリーダーシップにより、異なる専門性の研究者の効果的な連携がとられ、稲作技術の複雑化過程や長江流域と黄河流域の相互関係等について、新奇性の高い研究成果が数多く上げられたことは特筆に値する。他地域との比較や、化学分析を生かした文明論への貢献といった課題についても、公募研究や金沢大学国際文化資源学研究センターの研究活動との組合せ等を通じて対応してきたことがうかがえる。若手育成の面では、「田螺山^{でんらさん}キャンプ」を毎年開催するなど画期的な試みを展開し、「総合稲作文明学」の問題関心を継承する国内外の若手研究者の育成に貢献した。今後、本研究領域を更に発展させ、これまでの成果や知見を基に更なる研究の深化を期待したい。